

大豆の生育には排水対策が必要です！！

播種から生育初期にかけて湿害を受けると、生育が抑制され収量が低下します。
湿害回避のため、排水対策を徹底しましょう。



(写真1) 排水不良圃場



(写真2) 排水がとれている圃場

写真1の圃場では葉が黄化し、茎葉で株間を覆っていないため、雑草が繁茂している

1. 暗渠

(1) 本暗渠

暗渠が排水できる状態になっていることを必ず確認しましょう。
施工から年月が経っている場合は、本暗渠だけでは排水が不十分となっている可能性があります。

(2) 補助暗渠

水田転換畑は湿害が発生しやすいため、本暗渠に加え、補助暗渠（弾丸暗渠、粃殻暗渠、サブソイラによる耕盤破碎等）を積極的に組み合わせましょう。
補助暗渠は確実に明渠につながましょう。

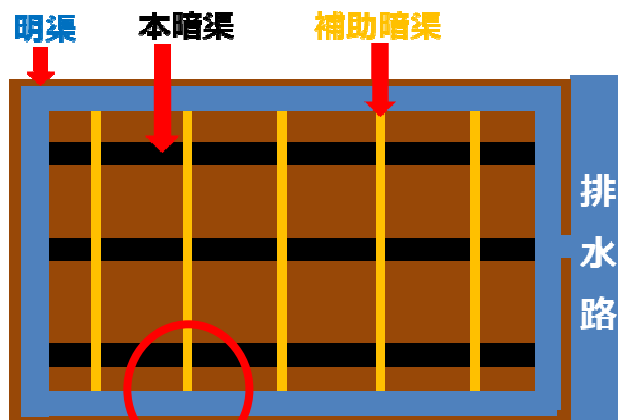


図1 圃場を上から見た図

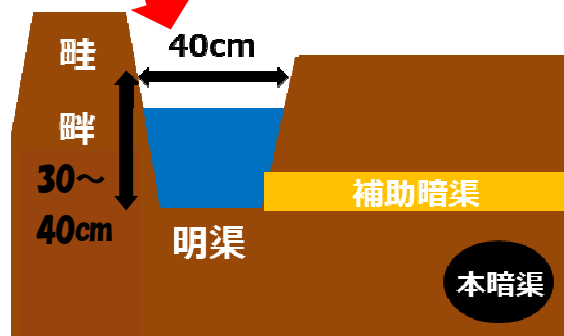


図2 圃場周囲の断面図

2. 明渠

降雨の排水は地表からの排水が基本です。
播種前に明渠を施工しましょう。
明渠の深さは30~40cmとし、確実に排水路につながります。
過去に施工した明渠を利用する場合は、深さや排水口のつなが目をメンテナンスしましょう。

明渠・補助暗渠の施工を合わせて排水対策を行いましょう。

☆春の農作業事故防止啓発運動展開中（4月1日～6月10日）

あせらず、ゆとりを持って農作業をしましょう。周囲の方にも、声掛けを！
熱中症に要注意！！作業前・作業中の水分補給とこまめな休憩をとりましょう。